

育ちゆく 花実の森 ⑦

環境体験学習はじまる

花実の森プロジェクトが目標にしている活動に「里山整備」と「環境学習の受け入れ」があります。かねてから進めてきた「環境学習の森づくり」に、この秋、北区大池小学校3年生の児童が、自然環境体験学習の授業としてやってきました。授業にはいくつかのプログラムを用意していますが、今回は「里山の植物観察」と「カブトムシの棲み家づくり」を体験してもらうこととし、まず普段見過ごしてしまうさまざまな植物の姿や、いろいろな特徴を持つ葉っぱの観察をじっくりし採収した後は、「カブトムシの棲み家づくり」の体験。この夏に自然産卵し孵化した幼虫が棲む場所から、少し離れたところに準備した「大池小学校カブトムシ分校」への引っ越し作業。子どもたちが持つ手提げ袋に、それぞれ数匹ずつの幼虫を土

と一緒に入れてやり運搬。ここの分校で冬を越し、来春から初夏にさなぎ・成虫へと育つ姿を引き続き観察に来てもらい、命の営みをしっかり学んでもらう体験学習です。



カブトムシ分校へ幼虫引っ越し

「田植えから稲刈りまで」の里山版、『カブトムシの棲み家作りから幼虫・成虫観察まで』は始まったばかり。今、ここ花実の森ではおそらく数百匹の幼虫が冬眠し、子どもたちを待っています。さらに多くの市内小学校のカブトムシ分校が設立し、充実した自然環境体験学習場となるよう活動を続けます。（花実の森プロジェクト・菅田忠志）

和布のリメイク講習 好評

「たんすに眠っている着物を再利用しましょう」という、第1回「和布リメイク講習会」が11月10日、環境未来館で開かれ、午前・午後合わせてお母さんたち39人が受講しました。先生役は、「チームたんすの肥やし」（藤本明美代表・生17）のメンバー8人。好みの着物地を使ったエコバック作りや、展示されたリメイク服から、作りたいものを選び、その



型紙作りを行う参加者

型紙をとる作業です。「お洒落なバックができて嬉しい」「型紙は、自分では取れないのでとても助かった」「また開催して欲しい」。特に型紙作りは「大変よかった」と大好評でした。「たんすに眠っている着物がリメイクできる」とのPRが効いたようです。布草履作りは「あじさいグループ」（生環16有志）が頑張ってくれ、お子さん連れのお母さんには、

「カーネーション」（一森美代子代表・福12）が、子供たちの世話係を務めてくれました。

小さい子どもをみてもらって心置きなく作業ができるお母さん。小学生の子どもと一緒にミシンを踏みながら「家では何でも急がせてしまうから、こんな催しはありがたい」と言われるお母さん。布草履作りに挑戦しているお父さんとお兄ちゃんも。皆さん、履き心地の良さに大満足でした。

別室では、「古着から燃料を作るプロジェクト」のビデオ映像が流れ、出し手・受け手双方にメリットのある古着のリユース活動が、より深く理解できました。この催しに、70人もの応募がありましたが、準備の都合や初回と言うこともあって、今回は40人に制限せざるをえず、次回開催が待たれます。

（広報委員・徳原尚世）

●廃部のお知らせ 神戸ホテルの会（堤 健代表・生9）は、メンバーの高齢化のため11月9日付けで廃部となりました。

『ぎやらりーわ』原稿募集

区会やサークルの活動レポート・ボランティア日記・写真・ご意見などをお寄せ下さい。500～900字程度。HPにも掲載します。広報誌を読んだ感想、企画も歓迎します。